

家庭と地域や社会が一体となり、子どもを育てる喜びと育つ喜びを実感できる村づくり

1 基本データ <県記載>

・順位は県内市町村の降順
・カッコ書きは県全体の数値

①人口増減率（H11年4月～H30年12月・約20年間）					
増減率	順位	うち自然増減		うち社会増減	
		増減率	順位	増減率	順位
▲47.8% (▲6.2%)	36位	▲22.8% (▲2.1%)	38位	▲25.0% (▲4.1%)	36位
②合計特殊出生率			③有配偶出生率		
H20～24年（年率）	順位	対H15～19年（年率）増減		（15～49歳女性有配偶者1,000人あたりの出生数）	
1.28 (1.29)	17位	▲0.06 (+0.06)	H27年	順位	
			53.3 (74.4)	33位	
④出生数（人）		⑤年少人口割合（15歳未満）			
H30年	H30年10月	順位	対25年10月増減		
1 (8,947)	5.0% (12.0%)	36位	▲0.4% ｲｯﾄ (▲0.7% ｲｯﾄ)		
⑥子育て世代割合（25～44歳）					
H30年10月	順位	対25年10月増減			
11.1% (20.7%)	36位	▲2.0% ｲｯﾄ (▲3.8% ｲｯﾄ)			

2 子育て家庭の現状と支援に関する課題

- ① 高齢者比率50%を超える中、子育て世代の移住者がやや増加しつつ、少子化への歯止めをかけるべく子育てを家庭・学校・地域で支える体制づくりが必要。
- ② 乳幼児健診の受診率も概ね100%で推移しているが、妊娠期から子どもの成長に至るまでの切れ目ない健康対策の推進と、親子ともに安心できる保健環境づくりを進めることが必要。
- ③ 就学前児童への教育の重要性の関心が高まっており、教育・保育環境の充実に取り組んでいるが、より一層の環境整備をすることが必要。
- ④ 近年は子どもが被害者となる事故や事件も増加しており、交通安全対策や家庭・公共機関・地域連携による見守り体制が必要とされており、安全で安心な環境づくりが、子育てを支えるための課題である。

3 子育て家庭への支援に関する基本的な考え方（目指していること）

- ① 東吉野村の豊かな自然や文化をいかした支援
- ② 次代の親となる子どもたちの心身の健全な育成
- ③ 地域の環境や人材など、資源を活用した支援
- ④ 家庭や地域全体の子育て力の向上

4 子育て家庭への支援に関する特徴的な取組

- ① 新生児祝い品として育児支援グッズ、木育玩具贈呈。
- ② 子育て中の親子の交流と育児支援を図る子育てサロンを月2回実施。
- ③ 庁舎内に壁紙アートを作成し来庁した子どもたちに写真を撮ることをきっかけに育児相談を実施。
- ④ 平成27年度こども園を設置6カ月～入所を受入れ保育園部及び幼稚園部で保育の充実を確保、非課税世帯の保育料減免を平成31年度より実施。
- ⑤ 平成22年度より放課後、就労等で自宅に保護者の居ない児童の学童保育を実施。
- ⑥ 高校生以上の通学バス補助
- ⑦ 18歳に達する日以後の3月31日までの子どもに係る保健医療費（自己負担額）の全額補助

5 多様な主体による子育て支援の取組

子育て世代の集まりの場として保護者の有志が主体となって月1回「こども食堂」を開催、場所を無料で提供している。

詳しくは 東吉野村ホームページ
<http://www.vill.higashiyoshino.nara.jp/>